

令和5年度 東京都立葛西南高等学校 学校経営計画（定時制）

東京都立葛西南高等学校長  
関山 勝之

1 目指す学校

(1) 教育目標

自主：自ら判断し、律して行動する  
創造：豊かな創造力で未来を拓く  
連帯：愛と責任をはぐくむ

(2) スクール・ミッション

自ら判断し、律して行動する「自主」、豊かな創造力で未来を拓く「創造」、愛と責任を育む「連帯」を教育目標として、分かりやすい授業や落ち着いた生活、キャリア教育の視点を重視した進路指導の充実、自主性と実践的な態度で臨む特別活動を通して、自他を尊重し、自己の能力を生かし、社会人として自立し、社会に貢献できる生徒を育成します。

(3) スクール・ポリシー

ア グラデュエーション・ポリシー

- ①社会で必要とされる基本的な生活習慣と規範意識を身に付ける
- ②社会で活躍するための基礎学力を身に付ける
- ③社会で生き抜くための思考力、判断力、表現力を身に付ける

イ カリキュラム・ポリシー

- ①小・中学の学び直しから高等学校教育に繋げ、社会参画するために必要な基礎学力を身に付ける
- ②体力を身に付けるとともにスポーツの意義を理解し自主的に体を動かす習慣を身に付ける
- ③生徒の個に応じたキャリア教育をすすめる、個性や資質・能力に応じた進路を実現する
- ④自主性と実践的な態度で臨む特別活動を通して、豊かな想像力と責任感を身に付ける
- ⑤情報リテラシーを身に付けるとともに、主体的・対話的で深い学びを実現する

ウ アドミッション・ポリシー

- ①働きながら積極的に学ぶ意欲があり、学習の遅れを取り戻すために勉強したい生徒
- ②学校行事、部活動、地域での活動などに積極的に取り組んでおり、今後も活動に意欲的に取り組む生徒
- ③総合的な学習の時間等において、自ら考え、活動し、自分なりの成果を上げた生徒

2 中期的目標と方策

(1) 生活指導を柱に進路指導を充実させる学校

- ア グランドデザインを基に、生徒の自己実現達成を支援するための研修等で組織的な指導体制を構築する。
- イ 規範意識を醸成するための指導体制を構築する。

(2) 生徒の基礎学力を定着・向上させる学校

- ア 生徒の基本的な生活習慣の確立を支援し、家庭学習の定着を図る指導が実践できる校内指導体制を構築する。
- イ 生徒の学力を定点観察することができる校内体制を構築する。

(3) 地域から信頼され愛される学校

- ア 地域のボランティア清掃や町会・区の行事に年間を通して参加することで、地域から信頼される学校を目指す。
- イ 地元の中学生から評価を受ける生徒指導を充実させる。

### 3 今年度の取組目標と方策

#### (1) 教育活動の目標と方策

##### ア 学習指導

###### ① 分かりやすい授業の一層の推進

幅広い学力層に対応した年間指導計画により、生徒に学習の見通しをもたせ、分かる喜びを実感させる。

###### ② 新学習指導要領に基づいたカリキュラムの実施と観点別評価の実施

新カリキュラムおよび観点別評価について適正な実施を全教員で推進する。

###### ③ 主体的・対話的で深い学びの推進

I C Tおよびアクティブラーニングを活用し、思考力・判断力を身に付けさせる学習を実施する。

###### ④ 多様性のある考え方を身に付ける

全校生徒に読書の機会を与え、幅広い見識を身に付けさせる。

###### ⑤ 外国につながる生徒への日本語支援

日本語外部人材活用事業の講師を活用し、外国につながる生徒への日本語定着支援を行う。

##### イ 生活指導

###### ① 落ち着いて生活できる安全・安心な学校生活の維持

チャイム着席を始めとする授業規律の確立や遅刻、交通安全等の生活習慣を指導する学校作りを行う。

###### ② 規範意識の醸成

登下校・授業時等のあいさつを励行することで基本的な規範意識を醸成する。

###### ③ 多様な生徒に対応した教育相談体制の確立

SC や YSW を活用した相談体制かつ支援体制を構築するとともに、いじめや差別のない多文化共生を意識した教育を実施する。

###### ④ 不登校生徒への支援と中途退学者の減少

相談体制・支援体制を活用し、生徒情報の共有・支援方法を実践する事で不登校生徒や中途退学者を減少させる。

##### ウ 進路指導

###### ① 希望する進路実現率 100%を目指す

1 年次から計画的なキャリア教育の充実を図り、生徒の望む進路を決定する。

###### ② 就労指導の実施

ハローワークと連携した就労指導を行い、勤労観および職業観を身に付けさせる。

###### ③ 社会における自己の役割を自覚させる

アルバイトなどの就労などを通して社会で自己の役割を自覚させる指導を行う。

##### エ 特別活動

###### ① 自己有用感および自己肯定感の向上

ホームルーム活動、学校行事、生徒会活動、部活動、奉仕活動等において、トライ&エラーを繰り返しながら自己の価値に気づかせる。

###### ② オリンピック・パラリンピック教育の推進とレガシーの構築

ホームルームなどの特別活動において多様性のある考え方を身に付けさせる教育活動を実施する。

##### オ 健康づくり

###### ① 健康づくりの推進

教育活動全体を通し生徒の体力向上させる取り組みを実施する。

##### カ 募集・広報活動

###### ① 生徒募集対策の充実

中学校訪問、学校説明会にて本校の魅力を PR する。

###### ② ホームページの充実

ホームページの充実を図り、常に内容を更新し、情報発信を行う。

##### キ 学校運営・組織体制

### ①サービス規律の遵守

サービス事故防止研修、関係資料配布、日常的な意識啓発を行い、情報漏洩や体罰等のサービス事故をゼロする。

### ②教育のDX化によるライフワークバランスと学びの保障を目指す

ICTを活用することによる業務の効率化および生徒へのオンライン等を活用した教材配布などを実施し、新たな働き方および学び方を創造する。

### ③ペーパーレス化の推進

学習プリントや会議資料のペーパーレス化を実現する。

## (2) 重点目標と方策

### ア 主体的・対話的で深い学びの実施

①授業の冒頭で本時の目標を分かりやすく提示することでわかりやすい授業へつなげる。

②生徒一人一人の学習状況を確認する発問や小テスト等により個に応じた指導を実施する。

③ICTおよびアクティブラーニングの手法を活用して、グループ学習・調べ学習・発表活動等により、思考力・判断力・表現力を育てる学習活動を実施する。

④一人1台端末を活用した授業を各単元1回以上実施する。

⑤対面授業およびオンライン授業を併用して、予習・復習等の効果的な学習を実施する。

⑥オンデマンド学習教材を作成し、対面授業・自宅学習、予習・復習などができる教材開発および指導方法を研究する。

⑦オンラインも活用した学習相談体制を構築し実施する。

### イ 全教職員による生徒指導の徹底

①あいさつを大事にして社会人としての立ち居振る舞いができる生徒の育成を実施する。

②登校時の立ち番、授業、下校指導などで挨拶する習慣を身に付けさせる。

③チャイム着席等の授業規律の徹底。

④遅刻・交通安全・生活習慣について継続した指導を実施する。

⑤社会人として通用する言葉遣いを日常生活から指導していく。

⑥SC・YSW・担任等と生徒情報を共有し、個別の支援方法を策定し、全教職員で生徒支援を行い、必要な生徒情報を共有することで適切で効果的な支援を徹底する。対面だけでなくオンラインも活用した相談体制を構築し実施する。

### ウ 教育のDX化および働き方改革の推進

①学習教材のデジタル化による教材研究の時間を短縮し働き方改革へつなげる。

②デジタル化した教材の共有による指導力向上を目指す。

③定期考査の採点をデジタル化することにより採点ミスの減少、紛失防止、効率化を目指す。

④業務をデジタル化することで業務効率を向上させ、個に応じた指導および新しい価値を創造していく。

⑤学習教材および会議資料のペーパーレス化による紙資源および使用予算の削減を目指す。

### エ 多文化共生の視点に立った指導体制の推進

①国内外地域の文化をお互いに理解しあい、共生社会を意識することが出来る人材を育成する。

②日本語の学習が必要な生徒への日本語支援を実施する。

③担任、進路部の他、NPO法人など外部団体のサポートも検討し、キャリア支援を充実させる。

## (3) 数値目標

- ・生徒による学校評価において、本校の授業は分かりやすいと感じる生徒が90%以上
- ・生徒による学校評価において、学校生活に対する安心度が85%以上
- ・生徒による学校評価において、学校行事満足度が85%以上
- ・1日平均出席率が各クラス85%以上
- ・三修制卒業生2名以上
- ・進路決定率95%以上
- ・中途退学者8人未満